

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871700676		
法人名	医療法人社団うしお会		
事業所名	グループホームおのころ		
所在地	兵庫県南あわじ市寺内1140-6		
自己評価作成日	平成24年4月28日	評価結果市町村受理日	2012年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件にあり、四季を感じながら穏やかに生活して頂いている。当施設の理念、方針であるご本人の思いや気持ちを尊重しその人らしい生活が出来るようにサービスを心掛けている。食事はインスタントは避け手作りを基本とし入居者の希望のメニューも考慮し食楽しんでもらっている。職員と入居者は信頼関係の元に仲良く、寄り添いよい距離感で接している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kaigo.com/">http://www.hyogo-kaigo.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2012年5月15日

地域医療に携わっている医療法人が母体で、開設7年目を迎えた今、地域住民の周知も浸透し、地域資源としても根付いてきている。温暖な気候、地産地消の食事はもとより、何よりも利用者一人ひとりが自分のペースで過ごす生活を大事にしている。日々の研鑽や個々に目標を持つことで職員の技術や意識向上となり、それが利用者の認知症の進行を緩やかにし、その結果最後までその人らしい生き方の実現にも近づいている。今回の評価をもう一度原点に立ち戻る機会とされ、願わくばこの7年目を新たな飛躍のチャンスと捉え、職員自身が目指す方向性を再認識することで、将来に向けた強力なチーム力の基盤作りともしたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係 (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない

59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に上げている	理念は常に誰もが分かるように見えやすい所に掲示しており入所時にはご家族にも分かり易く説明をしている。 職員は常に理念を念頭におき毎日朝の申し送り時に理念を唱歌しそれに基づいたその日の目標を各自掲げ実現出来るように努めている。日々の生活の中でも地域の方々との挨拶や行事時は案内状やパンフレットを配り、親しまれる施設を目指し実践している。	毎朝、職員一人ひとりが理念に基づいた目標を打ち出し、理念を自分の目標とし、自らが向上していく姿勢で日々取り組んでいる。それを基に会議等で十分な意見交換を行い、チームとして実践するための職員間の意識、ケアの統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶はもとより町内会、婦人会、学校、幼稚園、地域のボランティア等、各種団体に施設を来訪していただいたり地域のお祭りや住民大会等の催しに参加させてもらったりと交流の機会を増やしている。最近では近くで農作業をしている方から野菜などいただいたりすることが多くなっている。	これまで継続してきた双方向の交流により、事業所の周知も広まり、根付きつつある。事業所主催の納涼祭には、500人ほどの来訪者があり、利用者、家族、地元住民の交流がより深まる機会となった。普段、気軽に寄ってくれる住民も増えてきており、より日常的な訪問を増やす工夫を検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には事業所での行事に参加して頂き施設を交流の場として解放し気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。また、地域の老人会などの集会に参加させていただいて施設や認知症の理解を説明したり介護についても相談を受け付けている。	/	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し評価を会議で報告し、話し合いをし地域の方々の意見を真摯に受け止めている。老人会や住民会の方々とも連携を密に情報提供や災害時の避難場所の提供など協力体制を依頼している。地域の役員さんを通じて気安く施設に立ち寄ってもらえるよう声をかけて頂いて	事業所内の課題、利用者の状態や様子などを毎月報告し、地域代表者からは質問や意見が多数あがり、共に考えてもらう機会となっている。特に防災対策については関心が高く、消防署職員による説明を受け、事業所との連携協力の必要性を学び、体制づくりへの働きかけともなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市庁の担当者とは常に連携を密にしており意見や指導を受けており、施設として積極的に改善・調整を図り行っている。わからないことなど常に相談等している。	運営推進会議以外でも、個別の相談は気軽にできる関係を築いている。市内のホーム連絡会立ち上げも予定しており、さらに連携を強化していくことを目指している。		

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設を出るとすぐに用水路や国道があり交通量も多く、安全上の理由からやむを得ず施錠(玄関・裏口)を行っているが、ご家族様もやむを得ないことと理解をしていただいている。利用者の人権を常に考え、身体拘束に至らないよう、その都度細心の注意をしている。年間研修でも取り上げ毎年勉強会をし日々のケアのなかで職員間で気を付けている	毎年の定例研修として学び、認識を深めるよう努めている。会議等でも職員間で積極的に議論を重ね、拘束をしないケアの工夫についても話し合っている。現在は玄関の施錠はやむをえないことと捉えているが、外に出る機会はあるだけ持つようにし、閉塞感を無くす努力をしている。	今後も継続して検討を続けていただきたい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはミーティングや勉強会、研修等に参加し学んでいる。ホーム内では身体的、精神的、言葉による虐待等にならないよう細心の注意、監視を怠らず、行われぬよう努めている。現在まで虐待又はそれに準ずるような行為も一切行われていない。また、やむを得ず他の入所者に暴力や危害等のおそれがある場合は家族の方と話し合い理解、納得の上一時的に対処させていただいている	拘束と連動して、研修にて学んでいる。虐待の定義や内容については、特に理解を深めることを重視し、職員間での意識統一を図っている。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の関係文書を随時、職員が閲覧できるよう配慮されており、必要に応じ話し合いを行い、また、家族への説明・周知も行っている。	職員は制度内容や必要書類等について把握している。契約時には、本人、家族に必要なに応じて情報提供を行い、個別に説明もしている。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には契約書、重要事項説明書を、十分な時間をかけ納得がいかれるまで説明し利用者、ご家族の同意を得ている。 また、利用者の重度化に対しても、現状説明や話を聞いて理解・納得を図り、最善のケアが出来るよう行っている	契約関係書類については、わかりやすい言葉で置き替え、加算等の費用も納得するまで丁寧な説明に努めている。さらに家族には、本人の納得を得るために、特に家族の協力が不可欠であることも重視して説明している。医療関連や退所に関する事項については、看護師からの説明も加え、家族の不安を無くすよう配慮している		

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(1回/年)、家族来園時など、また苦情・意見箱等による意見収集に努め、意見がある場合には、施設全体で協議し対応を図っている。また、来園時には、意見(要望)を言って頂けるよう家族・利用者への配慮も心がけている。また、昨年度から家族会開催時にご家族様同士で会をもって頂いており家族間同士の繋がりを深めて頂いている。今年度より2ヶ月に一回気軽にお茶を飲みながら家族様の思いや悩み、要望など話し合いの機会をもうけている。	契約時に、家族の協力を前提としていることを納得してもらっており、そのための家族の不安や悩みを軽減することを事業所は重視している。来訪時だけでなく、家族会や、定期的な家族同士の交流会を設け、参加を働きかけている。それにより事業所、職員、家族との信頼関係をより深める効果へも期待している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者から意見を述べられるよう、ミーティング時やそれ以外にも機会を設けており、その都度、報告・相談を行われている。が、基本方針にそわない意見や少数の意見等は反映出来ないこともある。	開設から7年が経過したところで、職員個々の知識や技術の向上も図られ、会議等での積極的な提案や意見を働きかけている。管理者は職員自らの新たな提案と同時に、主体的な取り組みにもつながるように常に意識した姿勢で臨んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い職員個々の技能及びがんばり具合について把握し出来るだけ昇給、賞与等に反映出来るように法人役員と話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修やリーダー研修をはじめ各種団体が主催する勉強会(嚥下、介護等)法人内の勉強会(医療、リハビリ等)にも参加している。参加は自由であり本人の希望に添うようになっている。研修後は報告書等により学んだ知識の共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所相互間での職員の研修や勉強会等をさせて頂き知識、技術など質の向上に共に努力している。また同業者合同での行事の開催等地域の人も含め交流の機会を作っている。また、島内の同業者との横の繋がりを広げるため施設の見学や会合の機会を増やしている。		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応の重要性は理解しており、入所前にご本人やご家族とお会いする機会を出来るだけ多く持ちご本人の今までの生活歴や希望等急かすことなく知り知る機会をもって本人の気持ちを大事に受け止めてゆく努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりインテークを重ね施設をよく見てもらい家族の思いを出来るだけ受け止め不安や心配事、疑問点など話し合い不安事項を出来るだけ取り除き、家族と共にその人の思いを受け止める事が出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の今までの生活歴を踏まえた上で、今何を必要としているかを、本人の思い、家族の思い、周辺環境も考慮し、必要な支援を見極め、他に必要があれば関係機関との調整を含め、適切なサービスが出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方は人生でも先輩であり、教えて頂くことも多く尊敬の気持ちをもって接している。介護においてはその人の思いを理解し、尊重しその人らしく生活が出来るように、求められる時に適切な介護が出来るよう心掛けている。全員がその人の思いに寄り添う気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・本人・施設職員との三者間がお互いパートナーであるよう心がけ、家族の思い、本人の思いを尊重し、一番に家族と本人の絆を大切に不安や心配事をご家族と一緒にうけとめながらよい関係を築くよう努力している		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人、友人等の訪問は自由であり、外出外泊においても自由である。一応面会時間は決まってはいるが、その都度順応するよう心がけている。又、馴染みの場所や馴染みの人と外出出来るよう協力して頂いたり支援している。	これまでの生活歴に基づき、その人の好きなことや継続してきた事などを、本人の要望に応じ、できるだけ支援につなげている。利用者の家族や身内への思いを大事にして、家族には日頃からその思いを伝え、協力を仰ぐよう働きかけもしている。	

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自由に居室に入出入りし、語り合ったり一緒にテレビを見たり何気ない行動が孤立を少なくしている。また、作品を一緒に作ったりレクレーションをみんなでしながらお互いを支え合おうとする関係作りが出来るように手助		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方にも気安く訪問して頂いたり、行事には案内状を出しても参加して頂いたりご家族とも関わりを持ち、いい関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の今までの人生感、価値感、生き方等を理解把握し、その人の思いや希望を取り入れている。困難な場合はご家族等の意見も聞き希望に沿うようにしているが他の入居者の気持ちも考慮しながら出来るだけ思いに添うように心がけている。	利用者一人ひとりの入居後の生活状況や他利用者同士の関係性、或いはこれまでの職員との関わりから気づいたことを収集し、その人の思いに近づけるよう努めている。家族にも本人の要望として提案し、一緒に相談することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には本人やご家族から今までの生活歴、人生観、暮らし方、環境、人間関係、医療など詳しく聞き把握しまた、入所前には自宅を訪問させて頂き今までの生活等を見させて頂いている。その後もご本人の生活から情報を集めるようにしている。サービスの利用の経過についてはご家族、本人、担当ケアマネージャーにも情報を提供して頂いて		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がその日の一人ひとりの心身状態を把握記録して、その人らしく過ごしその人が有する力が発揮出来るようその人の思いがかなうよう職員も努めてい		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心理的、身体的な些細な変化等に即したサービスをその都度提供出来るように、今のサービスのモニタリングや家族、職員、必要な関係者とカンファレンスや担当者会議を開き現状に適したそのひとらしい生活が出来るように介護計画を作成している。	職員は、利用者の全体像を把握するなかから、その人らしい過ごし方を具体化し、日々の観察からの気づきも活かした計画を作成している。職員個々の気づきや意見を尊重、反映させながら、その人らしい計画を目指している。	

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護記録には、日々のバイタル、ケアの内容、その日の心理、健康状態、生活状況また、改善すべき点等が記載されており個人の状態が把握出来る。その中からその人らしい生活を送れているか見直し、適切な支援が提供出来るように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設サービスの枠にとらわれずに、家族・本人への思い希望を取り入れ個々のニーズに対応できるよう柔軟に多方面に対応しているが職員の数やハード面で出来ないこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の各種団体(老人会、消防署、警察、民生委員、幼稚園、小中学校等)と連携を取り多方面での協力体制を得ており地区運動会や文化祭、清掃作業などに参加したり、慰問などを受けている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、ご家族の希望を尊重しており入所時に合意している。受診時は必要に応じてご家族と共に職員も受診に付き添い医師に症状の説明等をしている。	入居時に希望を確認。かかりつけ医には往診があり、家族送迎で受診している利用者は3人である。医師とは状況を共有して連携に努めている。他の利用者は隣接の法人母体の病院へ職員付き添いで通院している。外来の看護師が週2回健康診断に来所し、必要に応じて相談できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院と医療連携が出来ており週2回訪問してくれ、入居者の健康管理や医療相談、急変時等の病院との連携が出来ている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時の情報提供は勿論のこと、環境の変化に順応し難いため職員が面会や付き添いをして安心できるよう協力、家族や主治医とも連携をとり出来るだけ早く回復、退院出来るよう支援している。協力病院が当ホームの母体法人であり医療連携も出来ており、協力関係、意志の疎通も出来ている。	法人病院の看護師の健康診断により、利用者の些細な体調変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。やむを得ず入院となった際は、利用者が安心して治療を受けられるよう面会をし、主治医と連携して早期退院に向け話し合いを重ねている。	

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては利用者、ご家族、医師とよく話し合いよりよい方向を検討し介護で支援が出来る重度化に対しては出来る限り対応していく。常に医療を必要とする重度化に対しては現在は常勤看護師や医療的な設備も整っていない為現在の環境では無理であり今後の課題とする	重度化対応に関し、事業所が誠意をもって介護できる範囲を契約書に記入し、説明して納得してもらっている。かかりつけ医の積極的な支援のもと、24時間対応で終末期ケアを実施する予定であった独居の利用者は、家族同居となった。今後も前向きに取り組むたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練時に消防署救急隊員による講習を依頼し実演と講習会(心肺蘇生法、AEDの使用法、嘔下、窒息時の対処法等)を行っている。また、淡路公域消防事務組合主催の応急手当普及員講習会にも参加し個々の実践力を身に付けている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防、避難訓練を行い、内1度は、消防署職員の指導を受けている。また、地域推進会議にて地域との協力体制も依頼している。	消防・避難訓練は夜間想定も含め年2回実施し、利用者の緊急時対応のための救急救命訓練を、消防署指導の下で年1回行っている。運営推進会議を通して、災害時等の地域協力を依頼している。	消防・避難訓練に運営推進会議のメンバーの参加を呼び掛け、課題などを共有し、地域住民の協力体制の構築を具体的に考えていかれてはいいかがか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、その一人ひとりをよく理解し不快感を感じさせないように、今、接している周囲の状況を見ながらその人のプライバシーを損ねないような対応を心掛	プライバシー確保の支援は個別のものであり、職員は利用者を理解して個々に対応するよう努めている。標語「利用者の心の声を聴いていますか」を掲示し、常に利用者一人ひとりを尊重するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の希望や意思の決定が言えるように、また利用者自身が決定出来るやすいよう理解力に応じた表現方法や言葉を選んで表出しやすい様に工夫している。また、本人の性格や想いを理解し自己決定ができるよう対応して		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の今までの生活のペース、習慣を尊重し職員の都合を優先せず時間にあまり制約されず個々の気分や、希望、状況等に応じ出来るだけ添えるように支援している。入居者のペースに歩みより穏やかに過ごせるよう努めて		

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに応じた服装、お化粧、時にはマニキュアなど本人の希望に応じる様にしている。 理美容業者の方が施設に訪問、パーマや毛染めなど本人の思い通りの髪型やおしゃれを楽しまれている。また、行きつけのところに行かれるかたもおられその際は家族の方、職員が付き添っている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューでは、個人の嗜好を聞き、献立し、食材も季節感を取入れ提供している。メニューによっては、一緒に料理をしたり片付けを行っている。誕生会等の行事では、本人の好物を提供し皆さんと共に食事会を開いている。	利用者の好みをもとに週単位で職員がメニューを決めているが、周辺の畑から旬の野菜のお裾分けがあったときは、利用者の意見で追加メニューとしている。職員も一緒に同じものを食するので、会話を楽しみながらの食事風景となっている。誕生会はその人が主役となるよう好みのメニューを作り、全員で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、分量をチェックしており体調不良時などは状況に応じて食事の形態、量、食材、水分等に細やかな配慮を心掛けている。入居者がいつでも自由に飲めるようお茶、水、ジュース等を常備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後就寝前には必ず口腔ケアを促し、出来ているか確認している。自己にて出来ない場合は職員が介助し行っている。義歯は職員が毎日預かり洗浄、消毒をしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	殆どの方はトイレ誘導や一部介助が必要である。パットを利用し、尿意のある人にはその都度付き添い介助を行っている。失禁時には不快感、プライドを傷つけない様さりげない気配りをし皮膚の清潔に心掛けている。夜間排泄介助では、良眠を妨げないよう配慮している。自己にて排泄できる方にもそっとさりげなく見守り失敗時もすぐに対応出来るよう心掛けている。その人の排泄ペースを把握しその都度付き添い介助	排泄自立の利用者は数名であり、さりげなく見守っている。トイレでの排泄を基本とし、多種類の中から利用者の状態に適應するパットを、職員全員で検討し選んでいる。パットの工夫により、排泄状態に改善がみられる利用者もあり、今後も個別支援を続けたいと考えている。	

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し毎日、確認記録し各自の排便パターンを把握、便秘にならないよう水分補給、食材の工夫、適度な運動等を促し快便になるよう努めている。また解消されない場合は医師と相談し薬等の指示を受けている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時、時間は1F,2F交互にと決まっているが、本人の心身の状態や外出等の都合や希望に応じて毎日入浴したり、変更する事も可能である。一人で入浴したい人には職員は外で見守り必要に応じて介助している。	週3回の入浴を基本とし、1階と2階とで日を変えているが、利用者の状態や希望により柔軟に対応している。色と香りを楽しみ、くつろいで入浴できるよう毎日入浴剤を変えている。入浴拒否には、人を変え声掛けのタイミングを計り、無理強いすることなく入浴してもらえよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転や病的なものに関しては医師と相談し対応を決めている。眠れないときは無理強いせず職員と一緒にお茶を飲んだり話をしたり気分を和らげ自ら眠れるよう環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理簿を作成し、全職員が把握し、必ず服用確認をしている。服用後の状態観察も怠らず安全の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴に伴い家事、料理、園芸、洋裁、計算問題、クイズ、絵画等、個々にあった得意なこと、好きなことをして頂いている。 また、全体でのレクリエーションなどにより各個人の役割や仲間意識の向上を図っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の業務上にて、調整を図り出来るだけ個人要望に対応している。天気の良い日は買い物や散歩ドライブなど希望を聞き出かせ季節の移り変わり等を感じていただくよう、また普段行けないような場所でもご家族の方などの協力を得て出来る限り本人の希望を叶え外出出来るよう支援している。	季節に応じた行事外出は毎月企画し、日常的には買い物やドライブなどに出かけている。外出しにくい利用者が戸外で気持ち良く過ごせるよう、ベランダや菜園、広い駐車場など外気に触れる機会も作っている。個別の行きたいところへの支援は十分とは言えないが、家族の協力を得て実現できている。	利用者個々への誕生日プレゼントとして、行きたい場所への外出支援をしたいと、職員から意見が出たようだが、ぜひ生きる喜びへの支援として実現してほしい。

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時や受診時には出来るだけご自身で支払ったりして頂き釣り銭や金銭価値などを自覚して頂くようにしているが、困難な人も多く職員がすることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやりとりには全く制限はなく家族や大切な人との繋がりが途絶えないように近況報告等書けない人には職員が代筆したり手紙を読んであげたり積極的に支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が植えてあり、家庭菜園にはその季節の野菜を作っている。ホーム内は落ち着いた色調であり南向きで窓も大きく、日当たりもよく明るい。余り施設独特の幼稚な飾り付けはしていない。共有スペースには冬場はホットカーペットを敷きマッサージ機もあり、行事予定や献立などもわかりやすく掲示しており、季節感を取り入れたレイアウト作りも行い環境整備にも努めている。	広い玄関ロビーには花が活けられ手作り作品等がさりげなく飾られている。リビングへの入り口をはいると、対面式キッチンから職員の明るい声掛けがあり、利用者との会話が弾んでいる。木を基調とした内装は落ち着いた雰囲気を感じられ、大きい窓や高い天井は室内のゆとりを生み出している。利用者が思い思いに過ごせるようソファが置かれ、回廊式ウッドデッキのベランダにはベンチがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがありテレビや新聞、雑誌等が置かれており情報や話題の素となっている。カウンターでは入居者同士語り合いながらコーヒ等飲める。ウッドデッキのベランダには、今年から子犬も仲間入りし癒しを与えている。出入りも自由でありベンチも置かれている。利用者はそれぞれ思い思いの場所		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、キャビネットは備え付けであるが木製の暖かみのある物を設置している。個人差はあるが馴染みの家具や家族の写真、趣味の物、御仏壇など今までご本人が使用していた物をもってきてもらい今までと変わらない生活を送って頂ける様にしている。	各居室のベッドやキャビネットは事業所設置であるが、その他は利用者が心穏やかに居心地よく暮らせるよう、使い慣れた物を持参してもらうことを勧めてる。各室には写真や作品などが飾られ、それぞれ利用者の個性が感じられる部屋作りとなっている。	

## 自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーであり、通路は障害物の無いように動線が保たれ、階段、トイレ、浴室などには手摺が設置されている。玄関もスロープが併設されており車椅子にも対応している。歩行器、ポータブルトイレ等その人の状況に応じていつでも利用できる。目の高さにわかりやすく”トイレ”等の表示をしたり夜間にはトイレの明かりを点けドアを常時開け間違わないようにしている。各自居室には本人が迷わないように絵付きの表札を飾ったりドアノブに印を付けたりしている。個人の理解力や身体能力に合わせてわかるよう、出来るようを常に心掛け、安心して生活出来るように工夫している。			